

FPG

Financial Products Group

We're true professionals

2015年9月期 第1四半期

連結決算説明資料

(2014年10月-12月)

株式会社FPG

(code:7148)

東証1部



2015年1月

2015年9月期 第1四半期	業績ハイライト	P3
2015年9月期 第1四半期	レビュー	P4
2015年9月期 第1四半期	トピックス	P5～6
2015年9月期 第1四半期	タックス・リース・アレンジメント事業の状況	P8～9
2015年9月期 第1四半期	出資金に含まれる手数料について	P10
2015年9月期 第1四半期	損益計算書	P12
2015年9月期 第1四半期	貸借対照表	P13
2015年9月期	業績予想	P15
	収益構造の多角化（その他事業）	P16
	事業概略図 収益構造の多角化に向けた取組み	P17

2015年9月期 第1四半期 業績の総括



2015年9月期 第1四半期 業績ハイライト

◆ タックス・リース・アレンジメント事業が好調、大幅増収増益

法人実効税率の段階的引き下げについての政府方針実現期待を背景に、業績好調な投資家（顧客）からの需要が強く推移し、第2四半期以降に販売予定の出資金を前倒して販売したこと等から、オペレーティング・リース事業の出資金販売額は、22,743百万円（前期比311.3%増）と大幅に増加。その結果、その他の事業を含めた売上高・利益は、前年同期に比べ、大幅な増収増益を達成した。

【百万円】	2014年9月期 第1四半期	2015年9月期 第1四半期	増減	増減率	2015年9月期 通期予想 (修正後)	通期予想 進捗率	2015年9月期 上半期予想 (修正後)	上半期予想 進捗率
売上高	1,149	4,288	3,138	272.9%	10,643	40.3%	6,763	63.4%
営業利益	490	3,200	2,710	552.9%	6,433	49.8%	4,582	69.9%
経常利益	317	3,119	2,802	883.5%	6,264	49.8%	4,391	71.0%
四半期 (当期) 純利益	179	1,994	1,815	1,012.6%	3,850	51.8%	2,745	72.7%
リース事業 組成金額	43,284	62,172	18,887	43.6%	227,200	27.4%	—	—
出資金 販売額	5,529	22,743	17,213	311.3%	57,322	39.7%	—	—

※ 2015年9月期業績予想の数値は、本年1月30日に公表済みの修正数値を記載。

▶ 主なトピックス

10月	8日 31日	株式会社日本格付研究所(JCR)より、格付を新規取得(→P5「資金調達」参照) ベルニナ信託株式会社の全株式を取得(子会社化)、信託業へ進出
12月	8日 22日	ベルニナ信託株式会社を、株式会社FPG信託に商号変更 2014年9月期 期末配当実施 26.00円(年間26.00円) 連結配当性向 36.0%(年間)

▶ トピックス – タックス・リース・アレンジメント事業

組成面

◆ 案件供給体制の構築

オペレーティング・リース事業の組成能力の更なる強化・事業拡大を図るため、ストラクチャードファイナンス部を、ストラクチャードファイナンス1部・2部・3部・4部に再編

◆ 案件組成のサポートを行う合併会社の機能強化による組成能力の向上、新規賃借人の開拓

上記合併会社のアレンジにより、新規賃借人1社との間で航空機リース2件を組成

◆ 組成の拡大に対応した資金調達力の確保

資金調達枠は500億円超まで拡大(→P5「資金調達」参照)

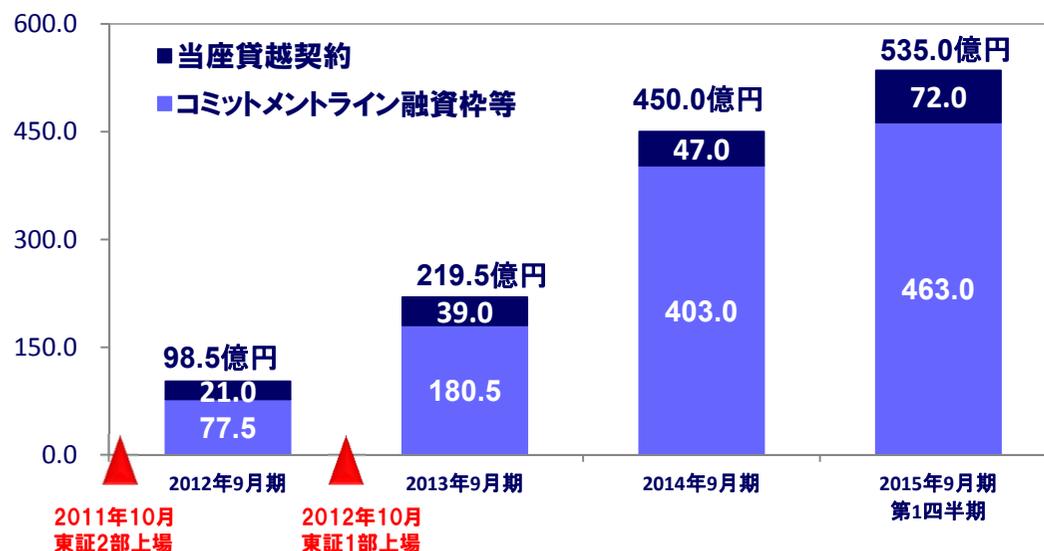
販売面

◆ 販売ネットワークの拡充

当四半期に109会計事務所、4金融機関と提携(→P6「販売ネットワークの拡大」参照)

◆ 営業力の更なる強化を図るため、営業推進部を新設

資金調達枠は535億円（前期末比18.9%増）と、引続き拡大傾向



JASDAQ上場(2010年9月)前の資金調達枠は15億円程度であったが、JASDAQ上場後、東証2部、東証1部への上場により、金融機関からの信用力が飛躍的に向上。また、JASDAQ上場前の取引銀行数は7行であったが、当四半期末には、46行へと拡大。

格付取得による資金調達手段の多様化・安定化

2014年10月8日付、
(株)日本格付研究所(JCR)より、新規取得

長期発行体格付	短期発行体格付	国内CP格付 (コマーシャルペーパー)
BBB-	J-2	J-2
		発行限度額30億円

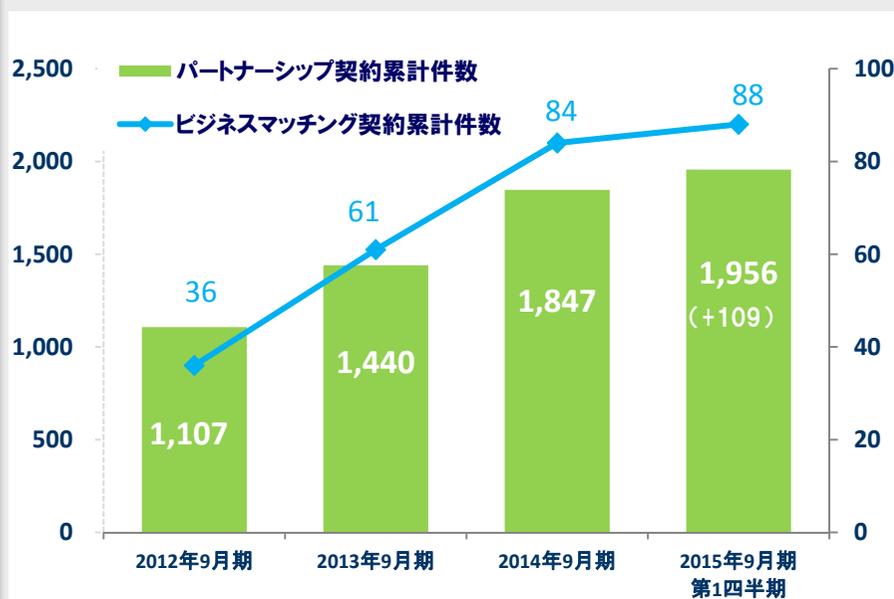
第三者機関から客観的な評価を得ることで、経営の透明性、財務の健全性を高めるとともに、資金調達手段の多様化・安定化を図る。

トピックス - 販売ネットワークの拡大

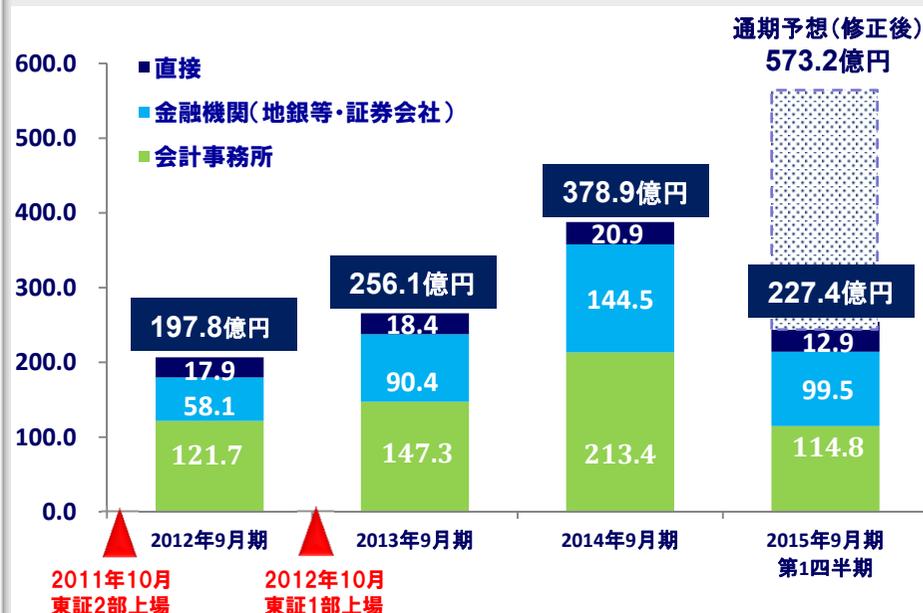
▶ **全国の会計事務所及び金融機関との提携拡大**（前期末比 109事務所、地銀等3行、証券1社 増）
特に地銀を中心とした金融機関からの大口投資家（顧客）の紹介が増加



会計事務所とのパートナーシップ契約件数と金融機関とのビジネスマッチング契約件数



ネットワーク別出資金販売額の推移



2015年9月期 第1四半期 營業概況



◆ 積極的な案件組成と、好調な販売環境により、業績が大幅伸張

組成面

案件組成のサポートを行う合併会社と連携を推進し、資本金調達力の向上を背景に積極的な案件組成を行った結果、オペレーティング・リース事業組成金額は、前年同期比43.6%増の62,172百万円となった。

販売面

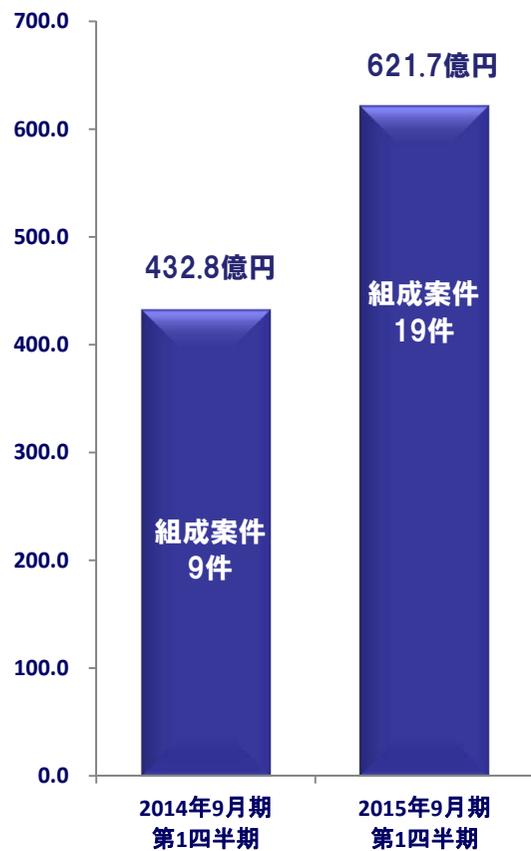
企業収益の改善、法人実効税率の段階的引き下げ実現期待を背景に、業績好調な投資家からの需要が強く推移し、販売ネットワークの拡大による販売力の向上とあいまって、第2四半期以降に販売予定であった出資金を前倒して販売する等により、出資金販売額は前年同期比311.3%増の22,743百万円となった。

(百万円)	2014年9月期 第1四半期	2015年9月期 第1四半期	増減	増減率	2014年9月期 通期実績	
オペレーティング・リース事業 組成金額	43,284	62,172	18,887	43.6%	168,613	
出資金販売額	5,529	22,743	17,213	311.3%	37,899	
	船舶	—	12,573	12,573	—	5,224
	コンテナ	1,676	6,383	4,707	280.8%	12,289
	航空機	3,853	3,786	△66	△1.7%	20,385
購入社数（累計）	129	398	269	208.5%	834	
タックス・リース・アレンジメント事業 売上高	891	4,057	3,165	355.2%	5,444	
手数料（売上高／出資金販売額） フルエクイティ案件を除く	16.1%	17.8%	1.7ポイント	10.6%	14.4%	

2015年9月期 第1四半期 タックス・リース・アレンジメント事業の状況

オペレーティング・リース事業 組成金額

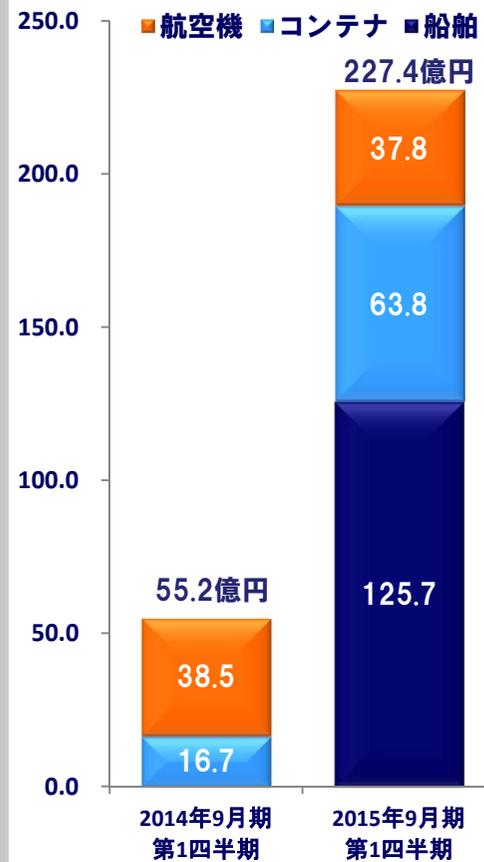
対前年同期比 43.6%増



* 案件数に関してはSPCの数をカウント

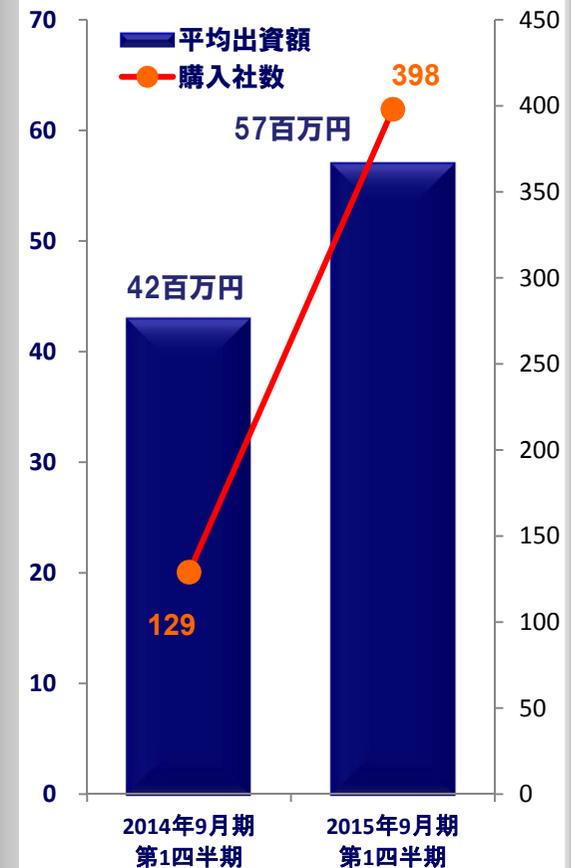
リース物件別出資金販売額

対前年同期比 311.3%増

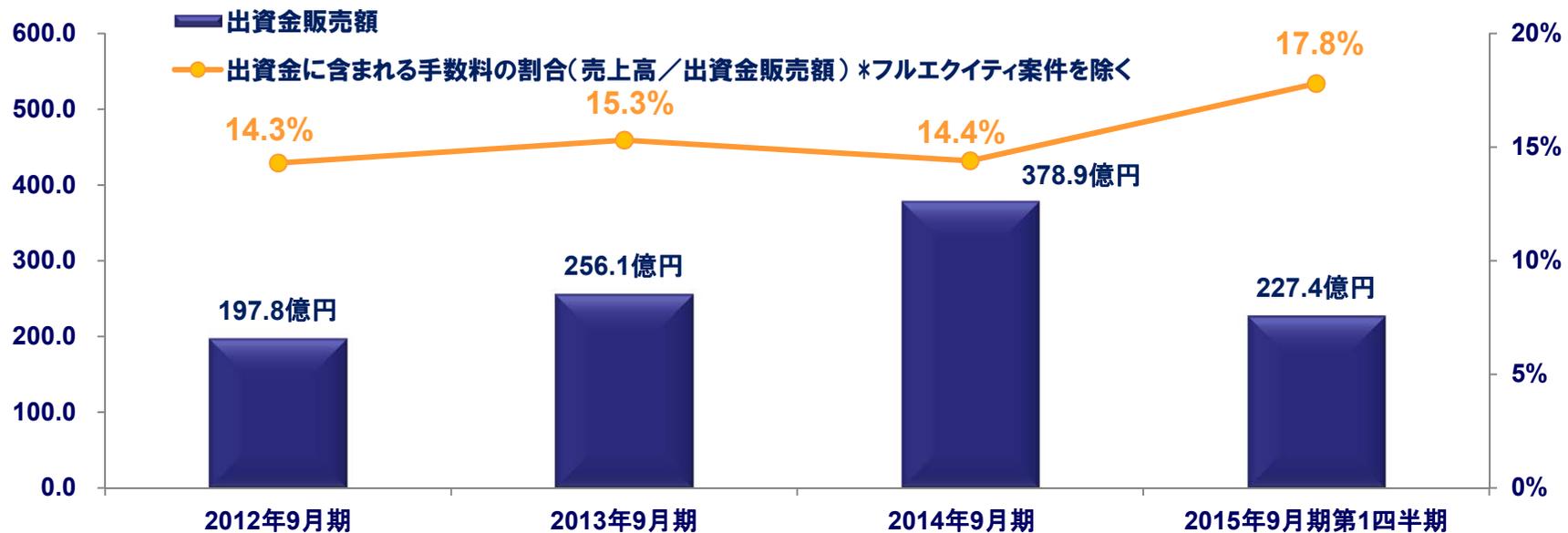


購入社数 (累計)/平均出資額

対前年同期比
269社増 / 15百万円増



2015年9月期 第1四半期 出資金に含まれる手数料について



(億円)	2012年9月期	2013年9月期	2014年9月期	2015年9月期第1四半期
タックス・リース・アレンジメント 事業売上高	26.6	37.4	54.4	40.5
出資金販売額	197.8	256.1	378.9	227.4
出資金に含まれる手数料の割合 (売上高／出資金販売額) * フルエクイティ案件を除く	14.3%	15.3%	14.4%	17.8%

*フルエクイティ案件とは、借入金を調達せず、すべて投資家からの出資金にて資金調達する案件である。なお、通常はオペレーティング・リース事業を組成する際、借入金及び出資金にて資金調達を行う。

出資金に含まれる手数料の推移

旺盛な投資家需要に応えるため、積極的に案件を組成。出資金に含まれる手数料については、直近数期において概ね14~15%台に推移しており、他の金融商品に比べ、高い収益性を維持している。
なお、当第1四半期は高収益案件の販売により17.8%となった。

2015年9月期 第1四半期 財務ハイライト



2015年9月期 第1四半期 損益計算書

(百万円)	2014年 第1四半期	2015年 第1四半期	増減
売上高	1,149 ①	4,288	3,138
売上原価	199 ②	490	291
売上総利益	950	3,797	2,847
販売管理費	460 ③	596	136
営業利益	490	3,200	2,710
営業外収益	40 ④	201	161
営業外費用	213 ⑤	283	69
経常利益	317	3,119	2,802
特別損失	1	3	1
税引前四半期純利益	315	3,115	2,800
法人税等合計	136	1,120	984
四半期純利益	179	1,994	1,815

① 売上高 4,288百万円 (+3,138百万円) 単位:百万円

タックス・リース・アレンジメント事業	4,057 (+ 3,165)
不動産関連事業	67 (Δ 34)
保険仲立人事業	53 (Δ 72)
証券事業	70 (+ 46)
投資顧問事業	13 (—)
信託事業	10 (—)

② 売上原価 490百万円 (+291百万円) 単位:百万円

案件組成コスト	64 (+ 42)
顧客紹介者への支払手数料	418 (+ 240)

→タックス・リース・アレンジメント事業の売上げが好調だったことから、顧客紹介に係る手数料が増加。

③ 販売管理費 596百万円 (+136百万円)

業容拡大に伴う、積極的な人材採用、連結子会社の増加により、人件費、その他の費用が増加。
*連結従業員数 前年同期末76名 → 当期末110名 (+34)

人件費	270 (+ 72)
-----	------------

④ 営業外収益 201百万円 (+161百万円)

リース開始後に商品出資金を販売した場合、経過分の利息(立替利息)を投資家(顧客)から徴収し、受取利息として計上しているが、出資金販売額の増加に伴い、立替利息が増加。その他、組成不動産の不動産賃貸料、業容拡大に伴う関連会社の持分法投資利益が増加。

⑤ 営業外費用 283百万円 (+ 69百万円)

コミットメントライン契約の拡大による支払手数料、および資金調達の拡大に伴う支払利息等により増加。

2015年9月期 第1四半期 貸借対照表

資産 (百万円)	2014年9月期 期末	2015年9月期 第1四半期末	増減
流動資産	42,278	50,290	8,011
現金及び預金	4,092	5,683	1,590
商品出資金	28,542	28,372	△169
組成用不動産	3,403	2,616	△787
その他 流動資産	6,240	13,618	7,378
固定資産	1,737	2,522	785
繰延資産	—	92	92
資産合計	44,016	52,905	8,889
負債 (百万円)	2014年9月期 期末	2015年9月期 第1四半期末	増減
流動負債	31,968	38,947	6,978
短期借入金等	21,580	21,992	411
前受金	4,404	4,145	△259
その他 流動負債	5,983	12,809	6,826
固定負債	1,497	2,217	720
長期借入金・社債	1,301	2,022	720
その他 固定負債	196	195	△0
負債合計	33,466	41,165	7,698
純資産 (百万円)	2014年9月期 期末	2015年9月期 第1四半期末	増減
資本金	3,072	3,072	—
資本剰余金	3,022	3,022	—
利益剰余金	4,441	5,606	1,165
自己株式	△0	△0	—
為替換算調整勘定	14	39	24
純資産合計	10,549	11,740	1,190
負債純資産合計	44,016	52,905	8,889

1 商品出資金 28,372百万円 (△ 169百万円)

積極的に案件組成を行った一方で、旺盛な投資家需要を背景とした出資金の販売を進めたことにより、商品出資金は前期末比減少。

商品出資金の
取得資金は
主にコミットメント
ライン融資枠等の
短期借入金で調達
(一時的な立替取得)



2 組成用不動産 2,616百万円 (△ 787百万円)

プラチナコート広尾、Qiz青山の2物件を発売中。

3 その他 流動資産 13,618百万円 (+7,378百万円)

その他 流動負債 12,809百万円 (+6,826百万円)

証券事業の通貨関連店頭デリバティブ商品の提供に際し、顧客とデリバティブ取引契約を締結するとともに、カバー取引として金融機関とデリバティブ取引契約を締結。その結果、資産側にデリバティブ債権とカバー取引先への差入保証金、負債側にデリバティブ債務と顧客からの受入保証金を計上。為替変動等によるデリバティブ取引の時価変動等のため、デリバティブ債権・債務、差入・受入保証金が増加。

4 前受金 4,145百万円 (△ 259百万円)

当四半期末の商品出資金が減少したため、当該出資金の手数料である前受金も減少。

5 長短借入金等 24,014百万円 (+1,132百万円)

主に商品出資金・組成用不動産の取得原資として資金調達が増加。

6 純資産 11,740百万円 (+1,190百万円)

前年度の期末配当812百万円を実施後、当四半期純利益1,994百万円の計上により、純資産は増加したが、自己資本比率は、業容拡大による総資産の増加により、前期末24.0%から22.2%と微減。

2015年9月期 業績予想



■ 2015年9月期 業績予想

(百万円)	2015年9月期 第1四半期実績	2015年9月期 上半期予想	上半期予想 進捗率	2015年9月期 通期予想	通期予想 進捗率
売上高	4,288	6,763	63.4%	10,643	40.3%
タックス・リース・ アレンジメント 事業	4,057	6,287	64.5%	9,538	42.5%
その他	230	476	48.5%	1,105	20.9%
営業利益	3,200	4,582	69.9%	6,433	49.8%
経常利益	3,119	4,391	71.0%	6,264	49.8%
当期(四半期)純利益	1,994	2,745	72.7%	3,850	51.8%
オペレーティング・リース 事業組成金額	62,172	—	—	227,200	27.4%
出資金販売額	22,743	—	—	57,322	39.7%

当第1四半期においては、投資家の強い需要を背景に、出資金販売額が計画を上回る水準で推移したことから、昨年10月30日に公表した業績予想につきましては、2015年1月30日付で上記の通り、修正いたしました。

なお、当第1四半期の実績は、上半期及び通期の予想と比べ、その進捗率が高くなっていますが、これは主に第2四半期以降に販売予定であった出資金の一部を前倒して販売したことによるものです。

■ 収益構造の多角化（その他事業）

▶ ベルニナ信託（現 FPG信託）を子会社化し、信託事業に進出

2014年10月31日、ベルニナ信託株式会社の全株式を取得（子会社化）

2014年12月 8日、株式会社 FPG信託に商号変更

さらなる金融商品・サービスの多様化を図り、当社グループの主な顧客である高収益の中小企業や富裕層である個人投資家に対し、FPG信託の信託機能を活用し、顧客のニーズに対応した金融商品・サービスを提供



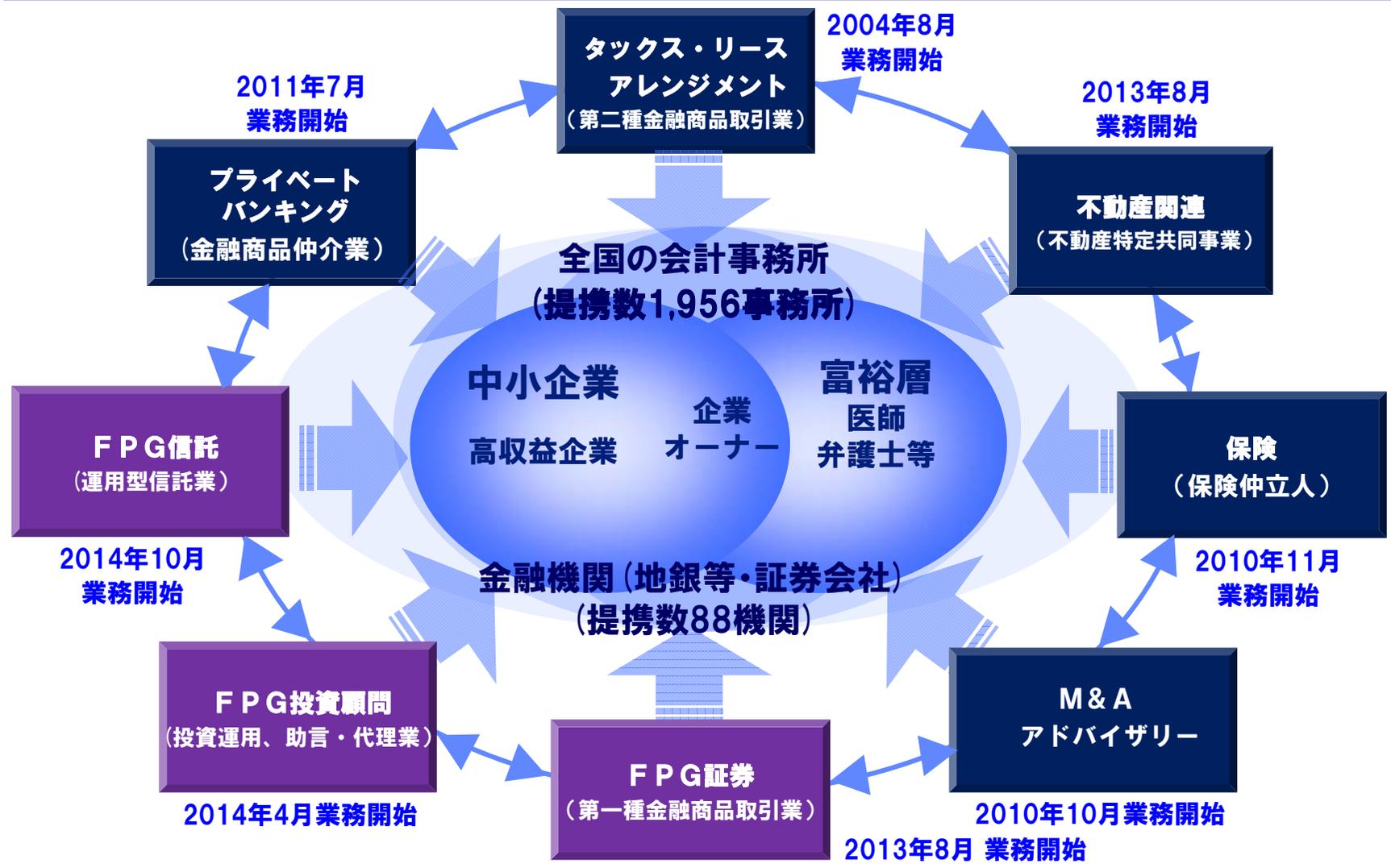
既存事業とのシナジーを最大化し、業績拡大を図る

FPG信託の会社概要

名称	株式会社FPG信託
所在地	東京都千代田区丸の内2丁目7番2号JPタワー29階
代表者の役職・氏名	代表取締役 ザイツ・ウォルター
事業内容	信託業（運用型信託免許）
資本金	547百万円
設立年月日	2009年3月24日

■ 事業概略図 収益構造の多角化に向けた取り組み

高収益なオーナー企業及び富裕層に対して、各種金融商品・サービスを提供するワンストップ型ファイナンシャルサービス業を目指す



- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社FPG（以下、弊社）の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。
- これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき弊社が判断した予測です。
- 本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社FPG IR担当

TEL (03) 5288-5691

URL <http://www.fpg.jp>